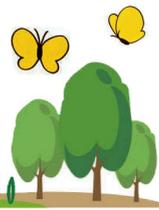




ちょっとそこまで～お散歩日和(地域編)～



鉄塔豊島園線

今ではもう誰も見向きもしない映画の群れに埋もれてしまっているかもしれませんが、「銀のエンゼル」という映画があります。北海道の片田舎にあるコンビニ店主と、そこに集まる人々が織り成す群像劇です。その中で圧倒的な存在感を発揮しているのがアルバイトの佐藤役を演じる西島秀俊で、彼がやっと注目され始めた頃の作品です。その彼の台詞が出色です。勤務中でありながら、店主に酒を勧めるシーンです。



「あまり杓子定規にならず、たまには羽目を外してみるのもいいんじゃないですか。何か違って見えることがあるかもしれません。もちろん何もありませんが、でも、飲んでみましょう。やってみませんか。」

少し脱線話になりますが、この映画の監督は、今や全国区となった「チーム・ナックス」を率いる鈴木貴之です。したがって、そのメンバーもこぞって出演しているのですが、このロケ先でのホテルを巡っての屈辱が、大泉洋を東京進出に駆り立てたというエピソードは有名です。

じつは、この映画の内容について語りたいのではありません。隠れた遊び心に触れたいのです。それが送電線です。

最初は全く気が付かなかったのですが、最後の方、つまり、先ほどの酒を勧めるシーンの直後に停電が発生します。その時にはっとするのですが、失って初めてその存在価値に気付く電気と同様に、コンビニの有難みに通じる暗喩を意識することとなります。まさかと思いつつもう一度見直してみると、何とあるわあるわ、背景に空が出てくるシーンにはほとんど送電線を入れ込んでいるではありませんか。じつに面白い！



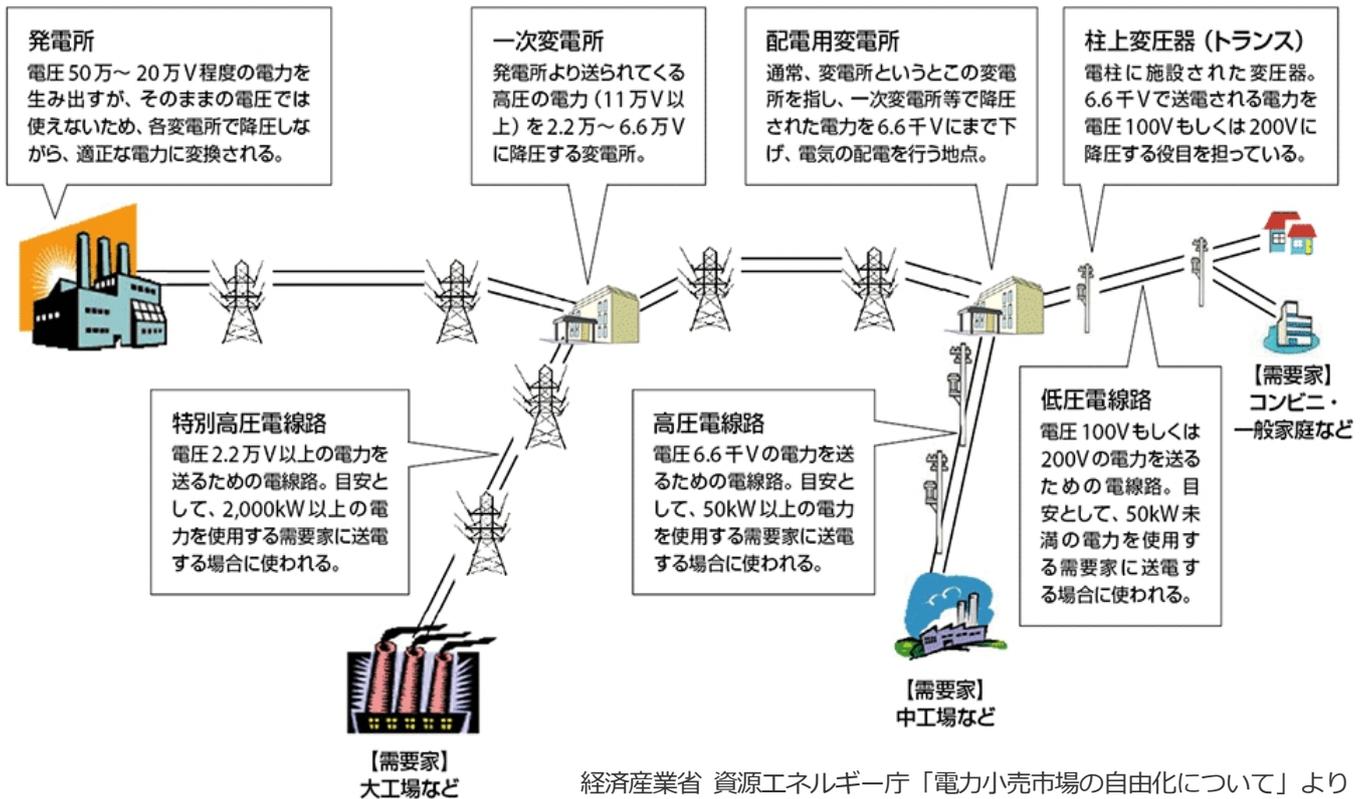
ここで、送電線を繋ぐ鉄塔とコンビニの共通点に注目してみました。

まずは、よく見ると姿形が全て違うことです。建つ場所によって微妙に変化しているだろうことは予想できますが、それにしても建設費等の効率性を考えれば可能な限り同じ形状の方がよさそうなのに、どれ1つ取ってみても同じものがないのは、逆にとっても不思議に感じます。

もう1つは、頑張っているのに気付かれない存在だということです。送電設備は電気を届けるための中継物に過ぎません。人々の生活を邪魔しないように、送電線を高い場所で支えているのが鉄塔です。社会を支える身近なインフラでありながら、多くの自己主張をしようとはしません。これもまた物流の中継地であると同時に、静かな佇まいで来客を待つ姿勢のコンビニとの共通点を感じるのです。

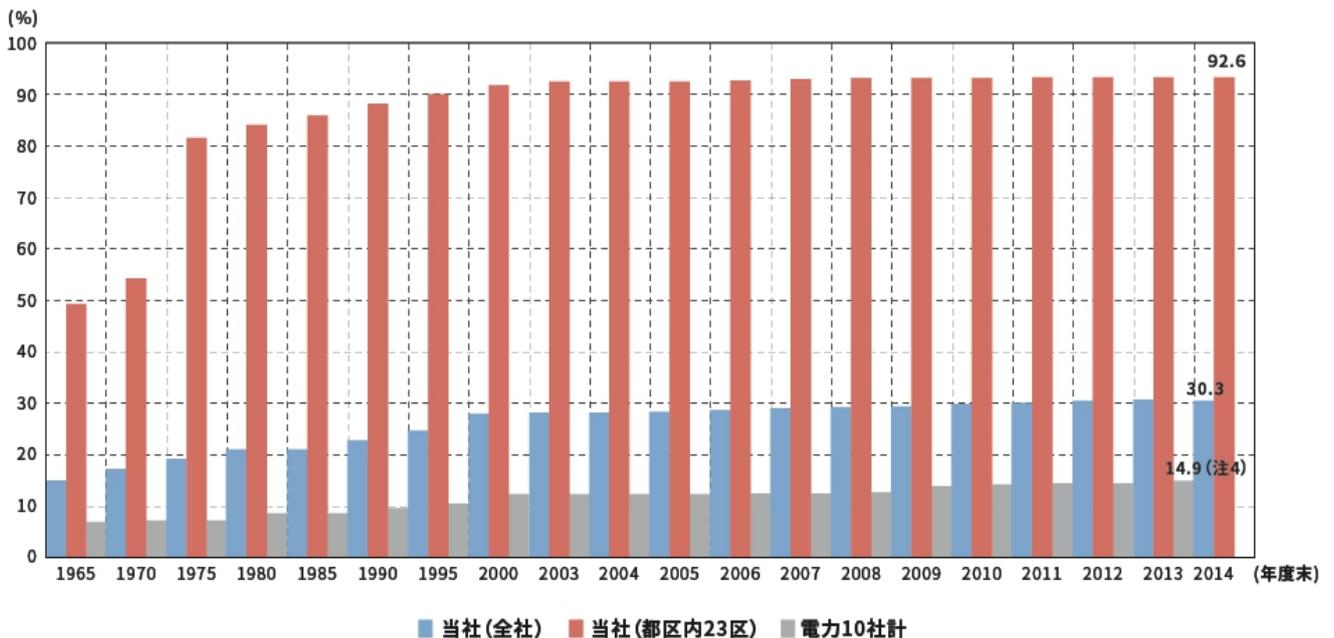
映画「銀のエンゼル」が、送電線と鉄塔を描く理由は、そうした共通点の他に、背景に奥行きをもたらし、田舎の雰囲気醸し出す効果に期待したからだと思います。

ということで、今号のテーマは送電線です。



この図は、発電所から私たちの一般家庭まで送られてくる電力供給の仕組みを表しています。これを見ると、発電所でつくられた電気は、送電線→変電所→配電線の経路をたどり私たちのもとに届いていることが分かります。

ところで、その一方、東電のホームページによると、23区内の送電線地中化率は約93%近くに至っています。換言すれば、23区内の架線による送電線は極めて珍しい存在であるということが分かります。

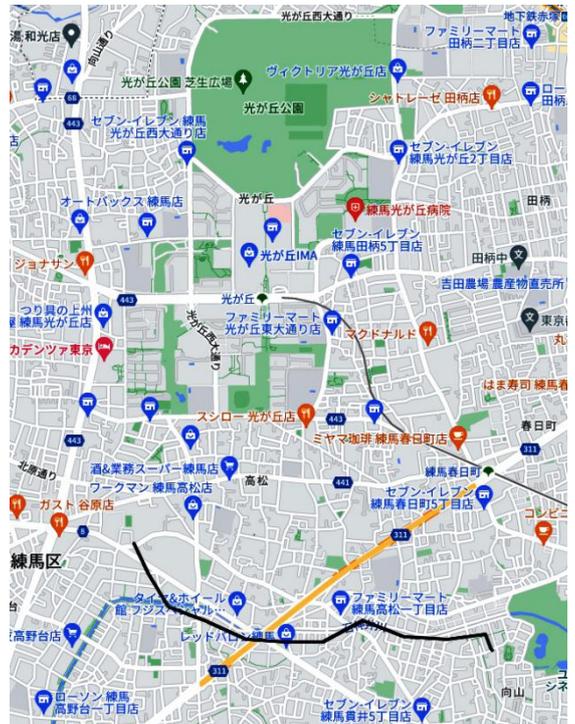


そこで、架線送電線として、近隣に今も生き残っている「豊島園線」を追いかけての散歩を楽しむことにしました。ただ、電線マニアでもなければ、鉄塔の形状や特徴、仕様などを説明しても意味不明ですので、ここは、ただただ番号をたどり、その姿を紹介することに専念したいと思います。

まずは、「豊島園線」とは何かというところから説明しなければなりません。

「武練線」という、西東京市の武蔵野変電所と、練馬駅前の練馬変電所（東電の練馬営業所内にある屋内型変電所）とを結ぶ架線送電線があります。じつは、この読み方が分かりません。武蔵野と練馬を繋ぐのですから「むねりせん」となるのでしょうか、「ぶねんせん」という表記も見付けました。

その「武練線」は、途中の、谷原1丁目にある谷原変電所で地下に埋設されて練馬変電所に繋がっています。したがって、ここから分岐している高架部分を「豊島園線」と称しています。向山児童公園の脇にある「向山開閉塔」からは地下化して、旧豊島園変電所に向かっているようです。この路線の目的は、豊島園での使用電力を賄うためだと考えられますから、都立公園が建設されれば、ここは廃止になる可能性が高くなります。ということは、この風景も間もなく見られなくなるということかもしれません。





この中で、特にお勧めなのが4番です。環八の練馬中央陸橋（新目白通りの交差点・谷原ガスタンク前）のすぐ脇にある鉄塔です。何と言っても、この角度で鉄塔を見ることができるとはとても珍しいと思います。そうです、一般道路を跨いだ形で立っているのです。これだけでも見る価値は大いにあると思いますよ。

